

中島 克幸

Nakajima Katsuyuki



京都・奈良

古都の
ドラマを
訪ねて



電子書籍の操作について

- ・ 目次をクリックすると、該当ページまで移動します。
また、移動先ページの見出しをクリックすると、目次に戻ります。
- ・ 「十字キー」やマウスのホイールを使用して読み進めます。
- ・ 「フルスクリーンモード」に設定すると、読みやすくなります。

「フルスクリーンモード」設定方法

メニューバー「表示」→「フルスクリーンモード」

Escキーで元の表示に戻ります。

※パソコン環境により、「フルスクリーンモード」が使用できない場合があります。



古都の
ドラマを
訪ねて

京都・奈良

中島克幸

Nakajima Katsuyuki

まえがき

二〇一二年三月、私にとって衝撃的な「事件」が起きた。青森―大阪間を結んでいた寝台特急「日本海」が廃止されてしまったのだ。日本海回りで、約十五時間かけて走っていたブルートレインである。二〇〇一年には、やはり青森―大阪を日本海回りで結んでいた長距離特急「白鳥」が廃止されており、これで私の大切な青春の思い出が二つ消えたことになる。

三十五年以上も前の、まだ寒さの残る三月、私は深夜、函館駅から青函連絡船に乗り、故郷北海道を後にした。京都の学校に進学するためである。故郷を離れる若干の不安と、これから待ち受けるであろう新しい生活への期待が心の中で交錯して

いた。見送りに来ていただいた近所の人にもらったおにぎりを食べながら、だんだん離れていく故郷の明かりをじっと見つめた。「頑張つてこいよ」という近所の人
の声が頭の中で響いた。まだ青函トンネルのなかった時代である。

四時間の船旅を終え、夜が明けきらないうちに青森駅に着くと、長いホームを歩いて、「白鳥」に乗り込んだ。いつしか夜が明け、朝日の眩しい日本海の光景が眼前に広がった。秋田、酒田を過ぎ、新潟に入る。まだ雪の残る田園風景を見ながら「地図では小さい国なのに、なんと遠いことよ」と思ったものである。やっとの思いで京都に着いたのはすでに夜も更けた頃。これが「日本海」だと全く逆で朝に京都に着く。帰省のたびに「日本海」「白鳥」を利用していた私にとって、これらの特急には特別な思いがある。今回の廃止のニュースに触れ、胸の中の寂しさは消し
ようもなかった。

学生時代の私の下宿は、金閣寺や北野天満宮、嵐山なども近く、観光には便利な所だったのでよく遊びに行ったものである。ただ学生の身分ゆえ、お金がなく拝観料は払えない。時折開かれる宝物の特別展の類いなどは見ることが叶わず、何回も残念な思いをしたものである。

京都を離れて早三十年。東京の会社に就職してからも京都にはよく行く。同じものを見ても、若い時とは感じ方が違うような気がする。若い時は古いものがただただ珍しかった。しかし最近では、昔の人々がどのような気持ちで神社や寺院、仏像を造り、相對したのかを少し考えられるようになった。

修学旅行で京都、奈良に行く学校は今でも多いと思うが、十代では神社、仏閣などまだ興味がなく退屈な思いをするだけで終わってしまう場合もあるのではないだろうか。一定の人生経験を積んで、自分の人生のあり方、生き方を顧み、考えるこ

との出来る年齢になってから訪れると、より多くのことを感じられるかもしれない。

この本は学術書でもガイドブックでもない。若い女性に人気のスイーツ情報などもない。神社、仏閣、あるいは観光施設を訪れた時の感想を、そこにまつわる歴史を絡めて綴ったエッセイである。歴史の解釈は一樣ではないので、本の内容に違和感を覚える人もいるかもしれない。しかしこの本はあくまで私の個人的な感想を書いたままである、ということをご了承いただきたい。

※この本は、ASA（朝日新聞販売所）橋本新聞販売株式会社のホームページに掲載したものを加筆・修正・編集したものです。

※各項末の「アクセス」は主に著者が利用したものを記載しています。

※本文中の情報は二〇一二年六月時点のものです。

京都

目次

東山

1・青蓮院	12
2・清水寺	16
3・京都靈山護国神社①	20
4・京都靈山護国神社②	24
5・一本橋	28
6・八坂神社	32
7・南座	36
8・先斗町	40

洛中Ⅰ

9・旧立誠小学校	44
10・二条城	48
11・西本願寺とその周辺	52
12・東本願寺	56
13・六波羅蜜寺	60
14・祇園祭	64
15・屏風祭	68

まえがき	3
あとがき	216
主な参考文献	214

洛中Ⅱ・洛西・嵐山

22	21	20	19	18	17	16
・鈴虫寺	・地藏院	・松尾大社	・常寂光寺	・金閣寺	・旧有栖川宮邸	・相国寺
96	92	88	84	80	76	72

洛北・洛東

29	28	27	26	25	24	23
・永観堂	・法然院	・哲学の道	・銀閣寺	・白沙村荘	・八大神社	・鞍馬寺
124	120	116	112	108	104	100

洛南・山科

36	35	34	33	32	31	30
・泉涌寺	・即成院	・醍醐寺	・隨心院	・羅城門跡	・東寺と西寺跡	・寺田屋
152	148	144	140	136	132	128

奈良

奈良・大和郡山

飛鳥・初瀬ほか

37・葉師寺

158

44・水落遺跡

186

38・唐招提寺

162

45・石舞台古墳

190

39・西大寺

166

46・飛鳥寺

194

40・東大寺

170

47・橘寺

198

41・興福寺

174

48・長谷寺

202

42・平城京跡

178

49・室生寺

206

43・郡山城

182

50・法起院

210

京都

奈良

東山

洛中Ⅰ

洛中Ⅱ・洛西・嵐山

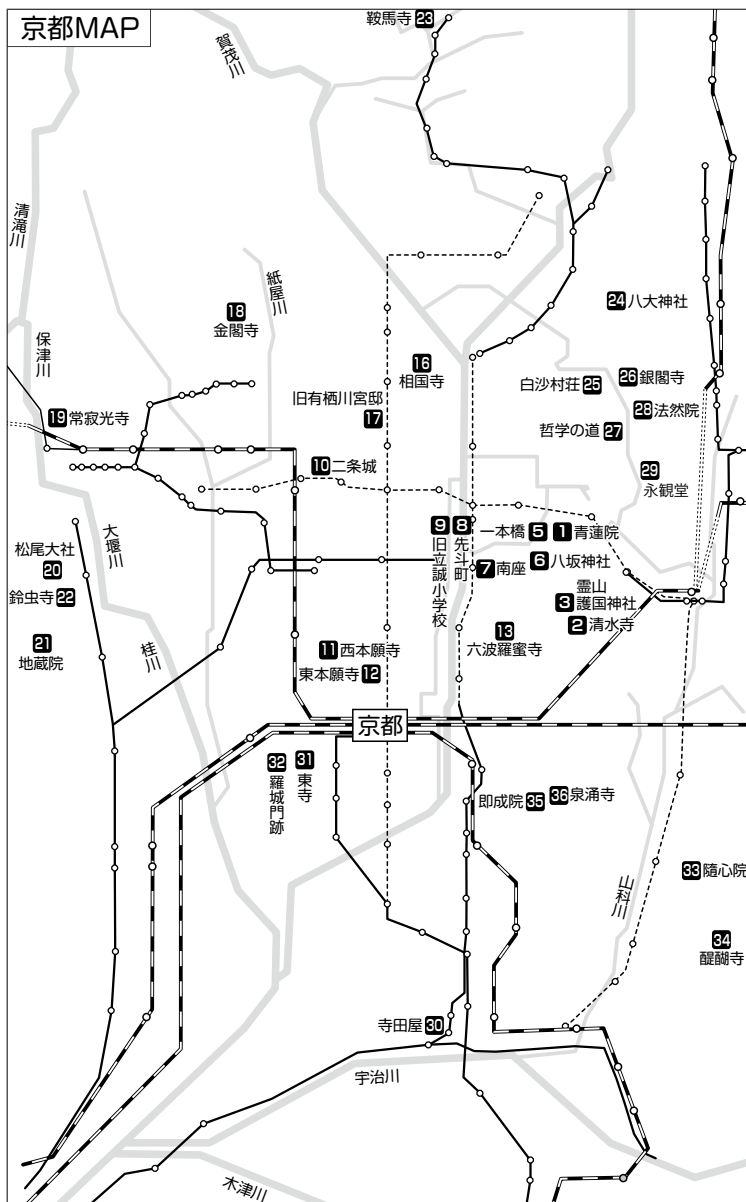
洛北・洛東

洛南・山科

奈良・大和郡山

飛鳥・初瀬ほか

京都MAP



京
都



くじ引きで決まった 「將軍さま」

1・青蓮院

青蓮院しょうれんいんの起源は平安時代の初めまでさかのぼる。天台宗の開祖・最澄が設立した比叡山延暦寺の僧侶の住坊の一つ、青蓮坊が始まりといわれる。坊の十二代住職ぎょうぜん行玄が鳥羽法皇の帰依を受け、法皇の皇子が弟子になった際、京の現在地に殿舎を造営し青蓮院となった。

青蓮院は、平安時代に制作された仏画、青不動で名高い。高野山金剛峯寺（和歌山県高野町）の赤不動、三井寺（滋賀県大津市）の黄不動と共に、日本の三大不動に数えられ、国宝に指定されている。怒りに満



青蓮院・薬医門

誰がくじ引きで選ばれると思うだろうか……

ちたその表情は、人々を救おうとする固い決意を表わしている。右手の剣で煩惱を断ち切り、左手のけんさく 羂索（＝繩状の仏具）で悪を縛り上げるといわれる。

南隣には知恩院があり、八坂神社や清水寺も近い。この辺りの寺院には、二十代の頃から何度も来ているが、年齢を重ねるに従い、感じ方に変化を感じる。若い頃は古いものになんとなく心ひかれるだけだった。今は不安や苦悩を背負いながら生きねばならない人々が、救いを仏に求めた心情がよく分かる。自分もまた悩み多き人生を歩ん

でいるためだろうか。

独裁政権の印象が強い封建時代だが、実は「談合」政治が長く続いた。例えば室町時代は、有力大名の「寄合」と呼ばれる話し合いで国家政策は決定された。最高権力者の將軍の選出でさえ同様で、四代將軍足利義持あしかがよしもちの後継は、四人の候補者の中から、なんとくじ引きで決められた。◊当選◊は「青蓮院准后じゆごう」、つまり青蓮院の門主、足利義教よしのりであった。本人が歓喜したか愕然としたかは知らないが、これも争いを回避するための知恵か。

談合の横行は現在、大問題になっている。景気低迷の中、この悪弊は国や地方の中枢機関にまで及び、日本の低迷の元凶でもある。談合事件の摘発も頻繁に報道されている。はたして日本人は、長年に亘って染み付いたこの悪弊を、断ち切る勇気を持てるのだろうか。

1・青蓮院



MEMO

●青蓮院

天皇や摂関家が門主になる門跡寺院。三千院、妙法院と共に、天台宗の三門跡の一つ。

●青不動

国宝。炎を背負った不動明王図。平安時代の制作。仏教絵画の傑作といわれる。

●足利義持

金閣寺を造った3代将軍足利義満の子。

●足利義教

義持の弟。出家して義円と名乗っていた。



アクセス

地下鉄東西線「東山」下車。三条通を東へ、三条神宮道交差点を南へ。徒歩10分。

住所：京都市東山区粟田口三条坊町69の1

英雄と英雄——

1200年の時を越え

2・清水寺

その年の世相を漢字一字で表す「今年の漢字」は、年末恒例の行事としてすっかりおなじみになっている。書いているのは、清水寺の貫主である。その清水寺の創建時の有力なパトロンが、東北出征で有名な坂上田村麻呂であった。

清水寺の南苑の一面に、アテルイとモレの顕彰碑がある。アテルイとは、田村麻呂の遠征軍と激闘を繰り広げた東北の勇者である。モレはその腹心であった。当時、東北地方は蝦夷と呼ばれ、まだ大和朝廷に服属しておらず、蝦夷から見ると、朝廷の遠



↑清水寺 見学者の絶えない“清水の舞台”



←坂上田村麻呂の墓

征軍は平和を乱す侵略者であった。東北で産出する金を独占したい大和朝廷に対し、アテルイ達の独立と尊厳を守る抗戦が続いた。

抵抗に手を焼いた朝廷は、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命し、東北征伐に当たらせました。アテルイ達の奇襲も、長年東北遠征に参加して経験を積み、捲土重来を期した老練な田村麻呂の知略に敵わず、

激戦のはて、ついに降伏した。東北を大和朝廷に組み入れることに成功した田村麻呂だが、それまでわずかな兵で、朝廷の大軍をことごとく撃破していたアテルイ達の勇敢な戦いに敬服し、その助命を朝廷に願ひ出た。だがそれは却下され、アテルイとモレは河内（大阪）で処刑されてしまった。

京都・山科の勸修小学校の北隣の児童公園に、坂上田村麻呂の墓がある。ここは平安遷都一一〇〇年を記念し一八九五年、その功績を称えて墓として整備された。一人敵から都を守っているようであった。孤高の英雄の雄姿を見る思いである。

アテルイとモレは天皇に反逆したとして、歴史の表舞台から抹殺されていた。しかし平安遷都一二〇〇年祭のさい、両雄の故郷、岩手県水沢・江刺地方（現在の奥州市）ゆかりの人々によって、清水寺に碑が建立された。一二〇〇年の時を経て、アテルイ達の名誉が回復され、田村麻呂も安堵しているに違いない。

2・清水寺



MEMO

●清水寺

賢心（後に延鎮^{えんちん}と改名）が778年に開創。坂上田村麻呂の帰依により発展した。

●坂上田村麻呂

54歳で死去し、甲冑^{かっちゅう}姿で剣や弓矢を携え、立ち姿のまま葬られたという。

●アテルイ、モレ

平安時代初期、20年以上朝廷と戦った。漢字では阿弓^{アテルイ}流爲^{モレ}、母礼。

●征夷大將軍

蝦夷を攻めた遠征軍の責任者。一時中絶したが、鎌倉時代以後は性格を変え幕府の責任者を指すとなった。



アクセス

清水寺・市バス「清水道」下車。清水坂を東へ。徒歩10分。

坂上田村麻呂の墓・地下鉄東西線「栂辻」^{なぎつじ}下車。新十条通を東へ、新十条西野道交差点を南へ。徒歩15分。

住所：清水寺・京都市東山区清水1の294

住所：坂上田村麻呂の墓・京都市山科区勤修寺東栗^{くり}栖野^{すのちよう}町

途中省略

続きは製品版にてお読みください。

著者プロフィール

中島 克幸 (なかじま かつゆき)

1958年、北海道生まれ。

立命館大学卒。

朝日新聞東京本社勤務。

群馬県在住。

既刊著書『上州をゆくー群馬県のドラマを訪ねてー』（あさを社）

古都のドラマを訪ねて 京都・奈良

2012年10月15日 電子版発行

著者 中島 克幸

発行者 瓜谷 綱延

発行所 株式会社 文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060 (編集)

03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

© Katsuyuki Nakajima 2012 Coded in Japan

ISBN978-4-286-12580-0

- 本作品の全部または一部を複製、編集、修正、変更、頒布、貸与、公衆送信、翻案、配布する等の著作権及び著作者人格権侵害となる行為、および有償・無償に関わらず、本データを第三者に譲渡することは禁止いたします。